



RESEARCH

発表資料

2007年10月5日

『定年前・定年後 新たな挑戦「仕事・家庭・社会」』 の出版について

ニッセイ基礎研究所（社長：竹原功）は、『定年前・定年後～新たな挑戦「仕事・家庭・社会」』を、朝日新聞社より出版いたしました。

ニッセイ基礎研究所では、1997年から2005年まで、隔年計5回にわたって、昭和8年（1933年）から昭和22年（1947年）生まれの男性を対象とした「中高年パネル調査（暮らしと生活設計に関する調査）」を実施してきました。調査対象者は1997年時点で50歳～64歳であり、まさに定年前後の年代にあたります。この調査の分析結果に、実際に定年を迎えた方々へのインタビュー調査の結果を加えて、男性の「定年前・定年後」の人生に光をあてた実践的なライフデザイン指南書を作ってみようと考え、本書の出版に至りました。

中高年パネル調査は、同じ調査対象者を追跡するという手法をとっているがゆえに、「定年前にどのような生活をしていた人が、定年後どうなっているか」、「定年後ハッピーに生活している人は、定年前どのような準備をしていたのか」といった実態を明らかにすることができます。中高年パネル調査を始めた時点では、こうした手法の調査事例はまだ稀でした。しかし、先行的に調査をスタートしたからこそ、折しも「2007年問題」として団塊世代の大量定年退職が社会問題化し、この調査に協力して下さった方々のうち、最年少の方がちょうど還暦を迎えるこの時期において、5回にわたる調査データの蓄積を、書籍としてまとめることができました。

本書では、定年前の読者に対しては、定年後という未知の生活を自分のこととして見つめながら、自分らしい生き方を考えるうえでのヒントを提供することができればと考えております。また、定年を既に経験された読者にとっても、他の男性たちが定年という変化をどう受け止め、定年後どのような生き方を選択しているかは、大いに関心のあるところだと思われま。本書では、定年後の読者にも、自身の定年前後の生活と照らし合わせながら興味深く読んで頂けるよう工夫を凝らしております。



まず第1章で、定年を通り抜けようとしている世代が駆け抜けてきた時代を振り返り、第2章以降は、定年世代が身を置く「仕事」、「家庭」、「社会～第三の場（仕事、家庭以外の場）」という「場」で切り分け、パネル調査のデータやインタビューを紹介しながら「定年前・定年後」を映し出し、終章で全体のまとめと若干の提言を行っております。内容につきましては、添付の「出版書籍のご紹介」をご参照ください。

なお、本書の執筆は、神座保彦（ニッセイ基礎研究所社会研究部門研究理事）、岸田宏司（和洋女子大学教授、ニッセイ基礎研究所客員研究員）、栗林敦子（ニッセイ基礎研究所生活研究部門主任研究員）、武石恵美子（法政大学教授、元ニッセイ基礎研究所上席研究員）、松浦民恵（ニッセイ基礎研究所生活研究部門副主任研究員）が担当しました。

本書の出版にあたり、中高年パネル調査にご協力頂いた調査対象者の皆様およびインタビューにご協力下さった方々をはじめ、出版に至るまでにお世話になった多くの皆様に、心から御礼申し上げます。

【書籍の内容に関するお問い合わせ】

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7

ニッセイ基礎研究所 (www.nli-research.co.jp)

梶本 健司（企画総務部 広報担当） 03-3512-1772 kajimoto@nli-research.co.jp

松浦 民恵（生活研究部門） 03-3512-1798 matsuura@nli-research.co.jp

【書籍の購入に関するお問い合わせ】

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

朝日新聞社

高橋 伸児（出版本部 書籍編集部） 03-5541-8787 takahashi-s5@asahi.com

書籍出版のご紹介



ニッセイ基礎研究所 編
朝日新聞社 刊
四六判上製 208頁
定価：本体 1,700円＋税

仕事一筋で数十年生きてきた男性が**定年**を迎えるとき、その後の人生をどう生きるか。

ニッセイ基礎研究所では、足かけ約10年にわたり、昭和8年～22年生まれの**742人の男性**（全国）の定年前後を追跡調査してきた。

同じ人を追跡した調査であるがゆえに、「定年前にどのような生活をしてきた人が、定年後どうなっているか」、「定年後ハッピーに生活している人は、定年前どのような準備をしていたのか」などを明らかにすることができる。

本書は、膨大な調査データと、定年前後を過ごす男性たちの具体的な**エピソード**をもとに、「仕事」「家庭」「社会」といった観点から詳細な分析を行った。

この本を読めば、定年後の生き方を考えたいあなたに役立つ**知恵**がきっと得られる。

◆本書はこんな方に特にオススメ！◆

定年後について具体的に考え始める男性

定年後のライフデザインは、なるべく早いうちから描かれることをお勧めします。50代の方だけでなく、30代、40代の方も、定年後について考えてみてはいかがでしょうか。

定年後の男性

他の男性たちが定年後にどのような生活を送っているか、ご自身の生活とも照らし合わせながらご覧いただくことができます。

企業の経営者の方、人事・ライフプラン研修を担当されている方

高齢化が進行するなかで、企業において、中高年男性の処遇の検討やライフプラン研修の充実が、より重要になってくると予想されます。企業の経営者の方、人事やライフプラン研修ご担当の方々が実務を検討される際にも、本書はとても有益です。

◆本書の主な内容◆

第Ⅰ章 定年世代のこれまで・これから

バブル時代の企業戦士たち/いつも多数派「団塊」世代/定年後は長い/思ったとおりにはいかない定年前後/ほか

第Ⅱ章 定年後、働く

定年イコール引退ではない/「定年後」あなたは何のために働きますか/「俺には部下が100人いたんだぞ!」の悲劇/起業という選択/ほか

第Ⅲ章 家庭を見直す

定年後に実感する家族の絆/熟年離婚は人ごとではない/子は「かすかい」転じて「パラサイト」?/親の介護を考える/家計~老後も続く老後不安/ほか

第Ⅳ章 社会に生きる

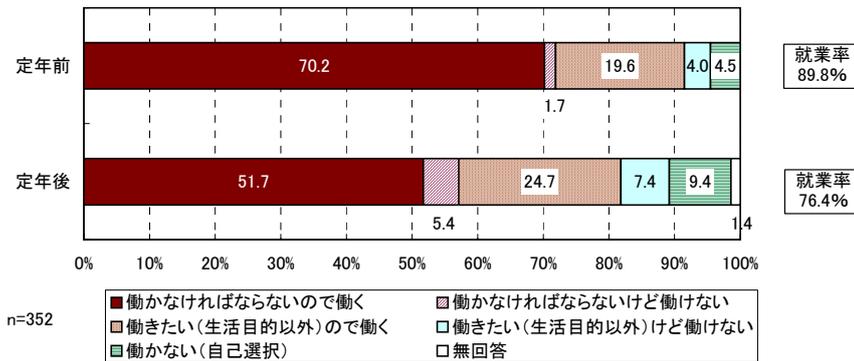
人間関係を作り直す/定年を機に友人は減る?/60歳の「地域デビュー」/定年後の生きかいを創る社会活動/人生を彩る趣味/ほか

終章 定年後、輝く

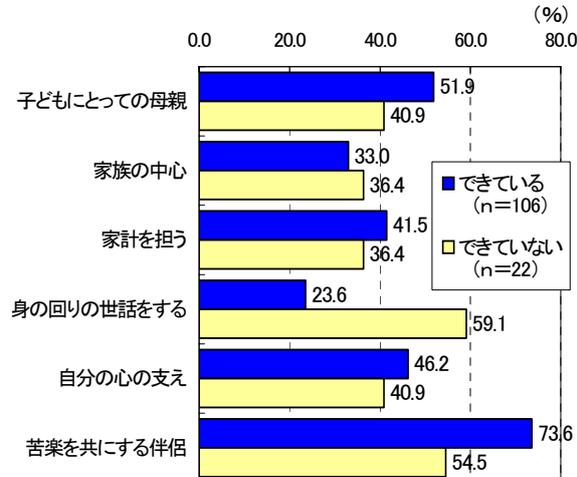
自ら描く定年後のライフデザイン/パネル調査からわかる定年後/定年から始まる/賢さは弾力性にあり/ほか

◆定年前後でこう変わる!◆

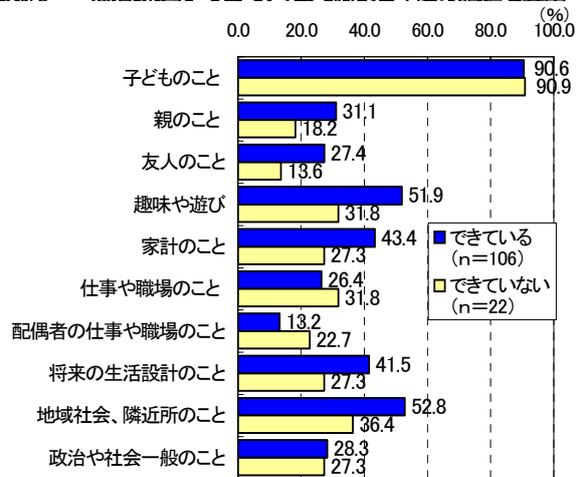
多様化する「働く意味」~「働かなければならないので働く」男性は定年後に半数強まで減少



夫婦の意思疎通ができていない夫は専に「身の回りの世話」を期待



意思疎通ができていた夫婦は定年後の話題も豊富



※本書は、ニッセイ基礎研究所メンバー（神座保彦、岸田宏司、栗林敦子、武石恵美子（現在は法政大学教授）、松浦民恵）が分担執筆しています。